

中国・四国地方のシラタカハムシとクロルリハムシについて

末長晴輝¹⁾・竹本拓矢²⁾

¹⁾ 〒710-0807 倉敷市西阿知町 833-8 サンシャイン A205 号室

²⁾ 〒060-8589 札幌市北区北9条西9丁目 北海道大学農学研究院昆虫体系学教室

Chrysolina seriepunctata and *C. difficilis* Collected from Chûgoku District, Honshu and Shikoku

Haruki SUENAGA and Takuya TAKEMOTO

ヨモギハムシ属 (*Chrysolina*) は国内では 14 種が知られている (齋藤, 2012; 齋藤・南, 2016). 近年では, 2011 年に長野県霧ヶ峰からキリガミネハムシが記載され, 2016 年に山形県からシラタカハムシが国内で初めて記録された (Suzuki & Saitoh, 2011; 齋藤・南, 2016; 武田, 2016). また, オオヨモギハムシとアイヌヨモギハムシ, ミヤマヨモギハムシが記載されているオオヨモギハムシ種群については, 形態的・遺伝的に異なる複数の地理的集団 (ユニット) に区分されることが分かっている (Saitoh *et al.*, 2008; 齋藤, 2010). 本属は金属光沢のある色彩変異に富んだ種を含むこともあり, ハムシ科の中でも人気の高い属のひとつであるが, 近年相次いで新種や新記録種が見つかるなど, 分類学的課題が残されている. この度, 筆者らは岡山県と広島県から得られたシラタカハムシの標本を, また広島県産と徳島県産のクロルリハムシと同定される標本をそれぞれ検したので, 分布資料として記録し, 若干の考察を行う.

1. シラタカハムシ *Chrysolina seriepunctata* (Weise, 1887)

検視標本: 1♂, 岡山県加茂町地域 (現津山市), 6. VI. 1993, 野嶋宏一採集, 末長保管 (図 1a); 1♂, 広島県芸北町 (現北広島町), 14. VII. 1965, 宮川和夫採集, 比和科学博物館保管 (図 1b, 2a).

本種は 2008 年に山形県山辺町畑谷荒沼で採集された標本に基づいて 2016 年に国内で初めて記録され, その後同地とその近くにある大沼で複数の幼虫が発見されたほか, 成虫が夜間にミズオトギリの葉を食べることが観察された (齋藤・南, 2016; 武田, 2016). 現時点では山形県内の 2 km 圏内にある 2 カ所の湿地でしか見つかっておらず, 追加記録が注目されていたところである.

岡山県の生息地は津山市加茂町地域のもので, 山

地 (1994) でアカソハムシとして記録していたものである. 詳細な産地名については, 本種のみならず植物等の保全上重要な場所と考えられるため, ここでは伏せておく. 2017 年 6 月 11 日と 6 月 25 日に生息確認のため同地へ赴いたところ, 生息地と思われる場所一面に食草であるミズオトギリが多数生育しているのを確認できたものの, 幼虫や成虫はおろか食痕も確認することができなかった. そのため, 現在も生息しているかどうか不明である. もし現在も生息していたとしても, 危機的な状況である可能性が高い. 広島県の標本は比和科学博物館に収蔵されていたもので, 中村ほか (1994) でエブルリハムシ (クロルリハムシ) として記録されていたものである. ラベルには芸北町との記述しかないが, おそらく西八幡湿原など島根県境に近い古くからある湿地群で得られたものと考えられた. いずれも古い標本であり, 現在でも生息環境が残っているかどうか不明であるが, 今回, 山形県から遠く離れた岡山県と広島県で得られた標本が見いだされたことから, 本種は東北地方のみならず本州の広い範囲に生息している可能性が考えられた. ミズオトギリ上の食痕や幼虫の有無に留意し, 夜間に湿原などを中心に探索することで新たな産地の発見が期待されるところである.

2. クロルリハムシ *Chrysolina difficilis* (Motschulsky, 1860)

検視標本: *Chrysolina shikokensis* Nakane, 1963: Holotype: Male (北海道大学総合博物館), “Mt. Tsurugi, Shikoku, 28.VII. ’58” / “HOLOTYPE” / “*Chrysolona (Hypericia) shikokensis* Nakane Det. T. Nakane 1963” / “166-4” / “Nakane Coll., SEHU JAPAN, 1999” / “0000004741, Sys. Ent, Hokkaido Univ., Japan [SEHU]”. (図 1d-g); 1♂, 1ex., 広島県臥竜山, 25.VI.1967, 宮川和夫採集, 比和科学博物館保管. (図 1c, 2b).

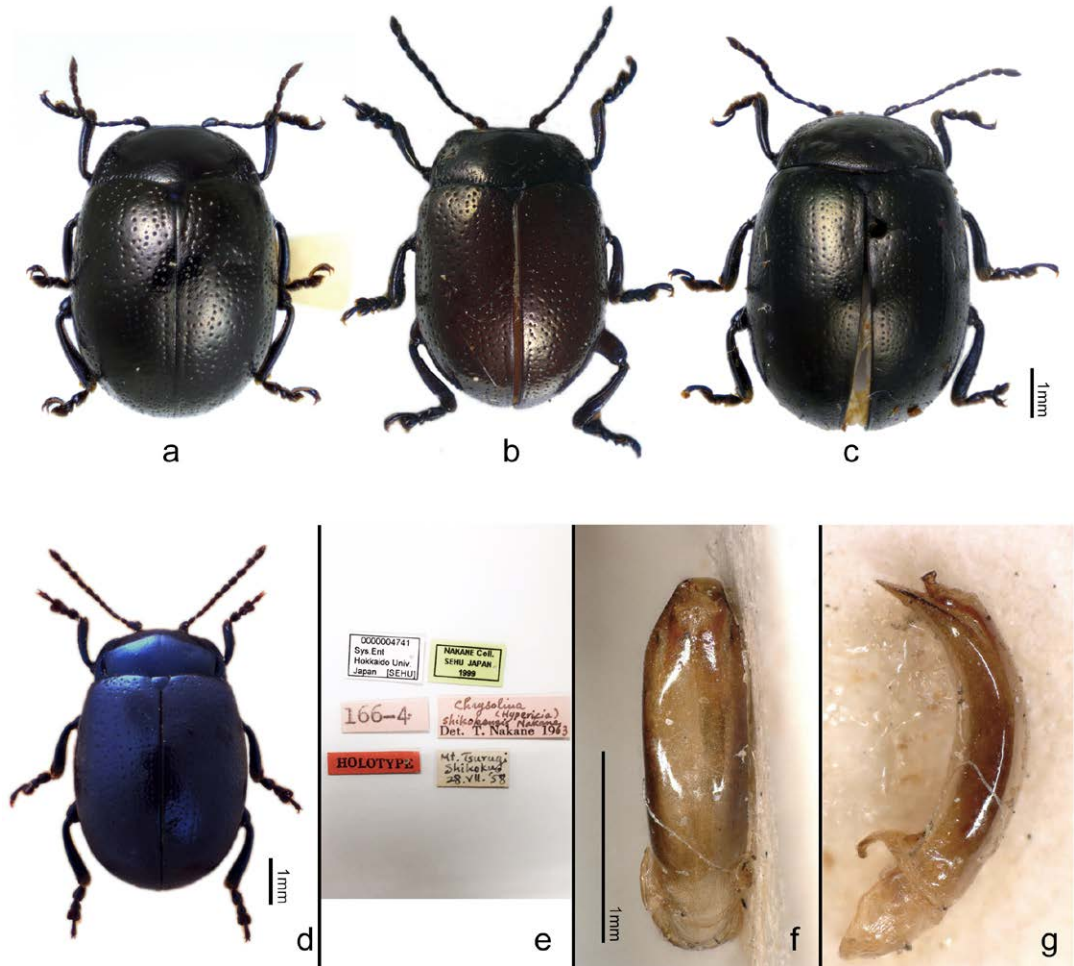


図1. a: シラタカハムシ (岡山県津山市加茂町産); b: シラタカハムシ (広島県北広島町産); c: クロルリハムシ (広島県臥竜山産); d: クロルリハムシ (徳島県剣山産: *Chrysolina shikokensis*のホロタイプ); e: 同ラベル; f: 同雄交尾器背面; g: 同雄交尾器側面。

広島県の標本は上のシラタカハムシと同じく、中村ほか (1994) でエゾリハムシ (クロルリハムシ) として記録されていたものである。しかし、齋藤 (2012) ではクロルリハムシの分布域に本州や四国が含まれていなかった。齋藤氏によると、当時は本州と四国産の“クロルリハムシ”には誤同定や未記録種と思われる個体が含まれており、再検討が必要と考えていたとのことである (齋藤私信)。たしかに、本州において正確な同定に基づいたクロルリハムシの標本はこれまで知られておらず、中村 (1994) の記録も再確認が必要であった。この度、筆者は本種の標本が所蔵されている比和科学博物館を訪れ、雄交尾器を含めた検視を行ったところ、改めてクロルリハムシであることを確認した。さらに、Nakane (1963) で記載され、

現在はクロルリハムシのシノニムとされている *Chrysolina shikokensis* Nakane についても、筆者のひとりである竹本が北海道大学総合博物館に所蔵されているホロタイプ標本を検したところ、雄交尾器の先端両側が緩く湾入し前方に狭まっている特徴から、クロルリハムシのシノニムで間違いないことを再確認した (図 1d-g)。今回、本州および四国からクロルリハムシと同定される標本が確認されたことから、本種も北海道のみならず本州から四国にかけて広く分布していることが考えられた。しかし、分布が局所的であると考えられ、また最近になって標本が得られていないことから、今後の再発見が望まれるところである。



図2. a: シラタカハムシ雄交尾器; b: クロルリハムシ雄交尾器 (左: 背面; 右: 側面)。

謝辞

末筆ながら、本報の執筆を助めていただき、原稿の校閲もしてくださった千葉県の齋藤諭氏、文献等の収集にご協力いただいた東京都の南雅之氏、比和科学博物館での標本調査を快諾してくださった元比和科学博物館館長の中村慎吾氏、標本調査にご協力くださった広島県の秋山美文氏、貴重な標本をご恵与いただいた岡山県の山地治氏に厚くお礼申し上げます。

引用文献

- 中村慎吾・秋山美文・木元新作, 1994. 広島県産ハムシ科目録. 比和科学博物館研究報告, (32): 69-101.
 Nakane, T., 1963. New or little-known Coleoptera from Japan and its adjacent regions. XVI. Fragmenta Coleopterologica, 4/5: 18-20.

- 齋藤 諭, 2010. 日本産オオヨモギハムシ種群の形態の地理的変異について. 甲虫ニュース, (170): 1-11.
 齋藤 諭, 2012. 日本産ヨモギハムシ目録. 月刊むし, (491): 10-26.
 Saitoh S., S. Miyai & H. Katakura, 2008. Geographical variation and diversification in the flightless leaf beetles of the *Chrysolina angusticollis* species complex (Chrysomelidae, Coleoptera) in northern Japan. Biological Journal of the Linnean Society, 93: 557-578.
 齋藤 諭・南 雅之, 2016. 日本初記録のシラタカハムシについて. 月刊むし, (544): 12-15.
 Suzuki, K. & S. Saitoh, 2011. Description of a new species of the genus *Chrysolina* (Coleoptera, Chrysomelidae) from Central Honshu, Japan. Elytra, Tokyo, New Series, 1(1): 131-140.
 武田 隆, 2016. シラタカハムシの生態. 月刊むし, (550): 44-47.
 山地 治, 1994. 岡山県から採集した甲虫類の記録. すずむし, (128): 7-13.

(2017年9月26日受領, 2017年11月24日受理)

【短報】ヨドシロヘリハンミョウを愛媛県から初確認

ヨドシロヘリハンミョウ *Callytron inspecularis* (W. Horn, 1904) は、朝鮮半島、中国南部、台湾、日本（瀬戸内海一帯と九州、四国、種子島）から記録されており、ヨシ群落やマングローブ林と隣接する砂泥地の河口域に限定して分布する特異な種である（橋村・丸山, 2015）。本種は、環境省絶滅危惧II類のほか、国内14府県で絶滅もしくは絶滅危惧種にランクし（NPO法人野生生物調査協会・NPO法人Envision環境保全事務所, 2017）、全国で絶滅が危惧されている。筆者らは従来記録のなかった愛媛県から本種を確認したので、以下に記録する。生息場所は非常に狭い地域であり、具体的な地名については保全措置がとられるまでは明らかにしない。

3exs. (成虫), 愛媛県内, 9. VII. 2017, 橋越清一採集, 愛媛県生物多様性センター保管; 10exs. (成



図1. ヨドシロヘリハンミョウ. 2017年7月9日, 橋越清一撮影。

虫), 同場所, 15. VII. 2017, 久松定智目撃。瀬戸内海周辺部での本種の生息状況として、隣